初めての放流体験
マダイ・ヒラメの生態学ぶ

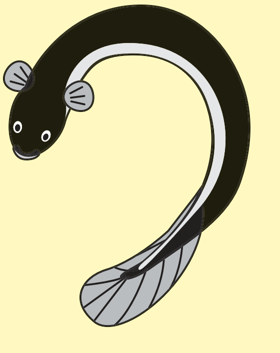
7月18日（火）、東串良漁業協同組合の漁港内において、『第30回豊かな海づくり放流祭』が開催されました。

放流祭には野方小学校、持留小学校の児童ら29名と東串良町立柏原小学校の児童16名が参加し、マダイやヒラメの生態を学びました。

学習後は、マダイとヒラメの稚魚1200匹を海へ「大きくなって帰ってきてね。」と声高らかに放流し、見送りました。

持留小学校の児玉來瞳（くるみ）さん（4年生）は、「ヒラメがとても小さくてかわいかったです。とても楽しかったです。」と笑顔で話しました。

鰻の放流

土用の丑の日（7月25日）の前日の7月24日（月）、大崎町内水面種苗採捕組合と有明町内水面種苗採捕組合が合同で、菱田川河口および田原川河口で約1200匹の鰻を放流しました。

これは、鰻の資源回復のために行われており、関係者らは「今回放流した鰻が大きく成長し、産卵のために海に帰り孵化したシラスウナギが帰ってきてくれることを楽しみにしています。」と期待を込めて話しました。